

●イランのマフマルバフ映画監督が「バミヤンの石仏は破壊されたのではなく、世界に彼の国の苦しみを知らせるため自ら崩れたのだ」と言ったというのをテレビで知り、改めて世界には日々、生命の危険にさらされている人々がいることを忘れてはいけないと思い知らされました。一日も早く空爆が止み平和がおとずれることを願って。

●私には子どもがいます。そのうち一人は幼児で病気がち。薬がきれませんが、入院経験も2回あります。日本の恵まれた医療と食生活で元気になり、順調に成長できます。アフガニスタンの子どもたちにも健やかに育ってほしいと願っています。わずかですが、募金します。

●夫は太平洋戦争に行き、フィリピンで戦死。夫の出征後に生まれた娘を抱えて食べるものもなく、いい尽くせぬ苦勞・努力をしてまいりました。私一人ではありません。日本全体が悲惨なものでした。が、今はもつたないほどの飽食の国です。私も細々ながら困らない生活をさせていたでいておられます。一日も早く平和な日がくるのを祈っております。

●年金生活者です。このような企画をしていただきましたこと、大変うれしく存じます。僅かばかりですが、お役立て願えば幸いです。

●2000円で約10名が1ヵ月暮せるとか。日本では考えられません。お正月は、料理を前に食べ切れずに残してしまう私たちをはずかし思いました。いつも戦争を始めるのは男たち。そして、弱い子どもや女が犠牲になるのです。政治の中の女の力をもっと強くしなければ。

●「医師 井戸を掘る」を読み終えたばかりです。今この本に出会えたことに感謝。「いつの世も真実の声は少数である」は重い言葉です。

カンパ企画  
報告のページ



●75歳、高齢年金者の「貧者の一灯」です。国内で発生している地位を利用した汚職、目に余ります。少額の出資ですが、現地の末端の人々の生きて行く糧になることを切望します。

●「編集部から」ペシャワール会は昨年10月から緊急支援を目的としたカンパ（いのちの基金）を呼びかけ、アフガン被災者に届けて来ました。今年3月でこの緊急支援は終了しましたが、従来からの医療支援活動を中心にした、農業、教育などのアフガン支援はつづいています。引きつづきカンパにご協力ください。

●加入者名 ペシャワール会  
●本募金のお問合せ先  
「ペシャワール会」  
TEL 092 (731) 2372  
FAX 092 (731) 2373  
peshawar@mx.bmesh.ne.jp

報告その①

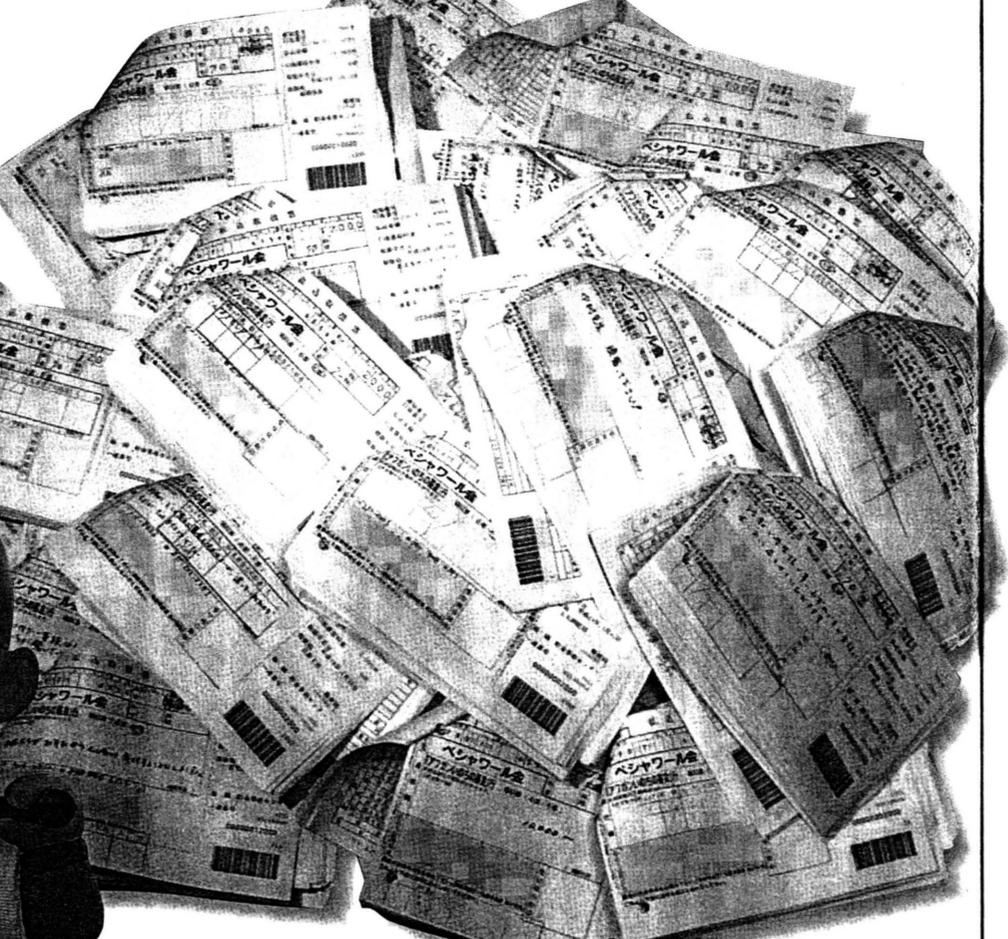
アフガニスタンの子どもたちと  
親たちに食糧を  
の呼びかけに、読者から  
4642万9634円が  
寄せられました。

本当に  
ありがとうございます

2002年3月31日現在

寒さと飢えに苦しむアフガニスタンの人たちを支援している市民グループ「ペシャワール会」へのカンパを春号で呼びかけたところ、1万6222人もの本誌読者からカンパが寄せられ、事務局から「こんなにたくさんの方がご協力くださるなんて、正直、驚いています」と連絡をいただきました。本当にすごいことです。救援活動の詳細については、秋号でご報告します。今回は、振込用紙に記された読者のメッセージを抜粋して掲載いたします。

通販生活  
2002年夏



「通販生活」読者のみなさんへ

アフガン救援につきまして、「この不況だから、遠い国のことを考える余裕はないかもしれない」といった私たちの不安な思いを越えて、多くの方々からご支援をいただきました。とくに、通販生活が発行された1月からは励ましの言葉とともに、たくさんのカンパをちょうだいしました。いただいたカンパは、食糧支

援の他に、支援計画を練っている次のプロジェクトに使わせていただきます。①診療所の強化、②子ども、女性への自助救助、③失業者救済、④農村復興、⑤水源確保、などが盛り込まれる予定です。今後ともアフガニスタンをご支援くださいませ。ありがとうございました。  
「ペシャワール会」事務局